



フランス革命と〈女性〉

大江一道

フランス革命のスローガンを象徴化した当時流行の作品(右頁)。共和暦第二年(一七九三年)にドビュクルが作成した。左上が統一、右上が自由、左下が平等、右下が友愛。だが、ここに象徴化された女性は、このブルジョワ革命にとって何であつたらうか。

「女性は生まれながら自由な存在にして、男性と平等の権利を有するものである。」——明らかにこれは、『人權宣言』第一条の、痛烈なパロディである。

正式には『人間と市民の権利の宣言』と称する『人權宣言』には、女性の権利のことは考慮の外にあつたのである。モントーバン肉屋の娘、革命前夜までかつてに「ド」を詐称して貴族娘と見せかけて生きてきたオランプ・ド・グーリュが、一七九一年、女性無視のフランス初の憲法に腹をたてて、一気に書きあげた『女性と婦人市民の権利の宣言』の第一条が、それであつた。

一七八九年と、それにつづく歳月のなかの、女たちの行動なしにブルジョワが権力の座につけたかどうか、きわめて怪しい。なのに、ジャコバン男性革命家たちさえ、女性の権利主張、男性との等しき行動に、あからさまな嫌悪を示したのであつた。急進的なサンキュロット男子も、公けのことで発言をしとくに危険をわかちあいたいと願う共和主義的女性たちを、ほとんど理解しようとしなかつた。